

授業日	10/25(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 10 回
学習目標	① 自らの探究（レポート）のテーマを授業から発見できるようになる。 ② 多くの人が平和を望む中、戦争を望む人間がいることを認識する。		
時間 授業内容	◇戦争を望むのはどのような人間か考える。 ◇軍需産業について学習し理解する。 ◇世界の「死の商人」について学習し理解する。 ①「風と共に去りぬ」のバトラーが「死の商人」だったと学習する。 バトラーは、「金儲け」の点にかけても徹底した「哲学」と「モラル」の持ち主である。「俺は金儲けのためなら、北軍、南軍、どっちにでもいい、うんと金をはずむ方に武器弾薬を売るのだ」 ② 現代の世界の「死の商人」について学習する。 ③ 日本の歴史上の「死の商人」について学習する。 ◇現代の日本の軍需産業について学習する。 東芝などでは、防衛省陸上自衛隊装備品関係を担当してきた営業幹部を、海外営業セクションに配置換えして、防衛装備品移転三原則に対応する新たな動きも出ている。地对空ミサイル・レーダーなどを開発している電機メーカーの技術水準は、アメリカと肩を並べるまでに達している」 （池内了 青井未帆 杉原浩司編『亡国の武器輸出 防衛装備移転三原則は何をもたらすか』合同出版・2017年） ◇三菱重工ほど権力と深く結び付き、戦争のたびに儲けてきた企業はない。 それは創業以来のDNAとして脈々と受け継がれている。世の中がキナ臭くなる度に、三菱重工がクローズアップされるのはそのためだ。 （『週間金曜日』編・『国策防衛企業三菱重工の正体』金曜日・2008年） ◇原子カムの存在を認識し、背景について考える。		
評価方法	◇ 各自が発見したテーマで作成したレポートで評価するとアナウンスする。		


 広島県花・もみじ
【2年・必修選択「ピーススタディ」】
「『探究』の追究」⑥
 兵庫県花・のじぎく
 2022年10月25日
 関西学院高等部
 読書科教諭・司書教諭
 種谷克彦

戦争をしたい人たち＝軍需産業
「死の商人」
 『広辞苑』(第七版)
 軍需品を製造・販売して距離を得る
 大資本を指している語。

戦争ビジネス




『ブリタニカ国際大百科事典』
 武器弾薬を製造販売する者で、
 戦争によって私利をはかることから、こう呼ばれる。
 1934年に組織されたアメリカ上院のナイ委員会が
 第1次世界大戦中のその実態を明らかにしたが、
 今日では軍産複合体として大きな問題となっている。
 しかも、近年の傾向として兵器産業に加え、
 貿易政策の重要な柱として、**国家が**
対外武器売却に積極的に関与するようになった。
アジア、アフリカ諸国に中古武器を売りつけたり、
紛争地域における勢力均衡の維持を名目に
熾烈な武器輸出競争を演じているのが実態である。

有名な「死の商人」
 バトラーは、「金儲け」の点にかけても
 徹底した「哲学」と「モラル」の持ち主である。
 「俺は、金儲けのためなら、
 北軍、南軍、どっちにでもいい、
 うんと金をはすむ方に
 武器弾薬を売るのだ」
 この哲学を実践することによって、
 バトラーの懐は、戦争と共に
 肥ってきたのであった。
 (岡倉古志郎『死の商人』岩波新書・1962年1月・4頁)



アメリカにおけるブルジョア革命をもたらした
 この南北戦争の実際の歴史の中に、
 我々は「生きたバトラー」を見つけることができる。

現在、アメリカ最大、
 いな世界最大の「巨大財閥」の一つ、
 モルガン財閥の創始者である
 J・P・モルガンであることを知る時、



我々は「戦争」＝「死の商人」＝「資本主義の発展」を
 結びつけて考えないわけにはいかない。
 (岡倉古志郎『死の商人』岩波新書・1962年1月・4頁)

日本の伝説的「死の商人」
 モルガン青年が
 インチキなカービン銃を種に
 ボロ儲けをした数年後、
 日本でも鉄砲商売で
大もうけをした男がいた。
その名を大倉喜八郎といい、
後の大倉財閥の始祖である。
 (同上書・8頁)



当時は勤皇、佐幕両派の対立で
 世間は物情騒然だった。
 この時勢を炯眼にも見て取った喜八郎は
 「鉄砲商売」こそ致富の捷徑であると考えた。
 そこで神田に開店したのが大倉銃砲店である。
 そして、明治維新の動乱の時期に
 鉄砲店を開いたことが、「死の商人」としての
 喜八郎の成功のきっかけになったのである。
 (同上書・8頁)



神田の大倉銃砲店に突如十五、六名の彰義隊士が訪れ、
 主人の喜八郎を有無を言わず
 上野の山に引き立てで行った。
 幹部の前に引き据えられ、彰義隊に納める約束の鉄砲を
 なぜ官軍に売ったのかと、厳しい詮議である。
 この時の喜八郎の返答こそ、
 「死の商人」の面目を輝かしたものであった。
 「確かに鉄砲をお売りする約束を致しました。
 しかし私は商人でございます。
 金を儲けなくては妻子も養えず、暮らしも立ちませぬ。
 ですから、現金さえお払い下さるならば、どちら様へでも
 お売りするわけです。何も、官軍にばかり
 御奉公致している訳ではございません。」

今の日本にも軍需産業は存在！

1943年12月に軍需会社法が施行され、指定された会社
 は民有形態を残しながらも、それまで以上に国家の戦争
 目的に沿った運営をするように迫られた。
 翌44年早々から、トヨタもニッサンも第1次指定を受けた。
 それ以前から、
 トヨタもニッサンも自動車以外の物を作られていた。
 1943年2月に、ニッサンの浅原源七社長以下の幹部が
 陸軍航空本部総監から、東京の上野にある高級レストラン
 精養軒に招待された。こんな素晴らしい料理がまだ
 食べられるのかと思いつながらご馳走になったというが・・・

ここで航空エンジンの製造を依頼された。

既に軍では
静岡県吉原市にある「東京人絹」の工場を候補として、
ニッサンの航空エンジン工場にする段取りができていた。
ニッサンでは、吉原工場だけでなく横浜でも航空エンジンを製造することになり43年10月から本格的生産に入った。
(桂木洋二『日本における自動車の世紀』



トヨタと日産を中心に』
グランプリ出版・1999年8月28日・88頁)

既に東芝などでは、防衛省陸上自衛隊装備品関係を担当してきた営業幹部を、海外営業セクションに配置換えして、防衛装備品移転三原則に対応する新たな動きも出ている。
地对空ミサイル・レーダーなどを開発している電機メーカーの技術水準は、アメリカと肩を並べるまでに達しており、日本の軍需産業はアメリカやヨーロッパだけでなく、
中国は軍需アジア諸国に対して武器輸出や武器生産の技術協力を進めようとしています。



『亡国の武器輸出』(池内了 青井未帆 杉原浩司編
『亡国の武器輸出』
防衛装備移転三原則は何をもたらすか』
合同出版・2017年 9月15日・120頁)

三菱重工ほど権力と深く結び付き、

戦争のたびに儲けてきた企業はない。
それは創業以来のDNAとして脈々と受け継がれている。
世の中がキナ臭くなる度に、

三菱重工がクローズアップされるのはそのためだ。
それは明治時代から、二一世紀の今日でも変わらない。
三菱グループの取材を長年続けてきた

ジャーナリストの井上学氏は言う。
「三菱、中でも重工は、
戦前は勿論、明治時代の創業当初より、
戦争で儲け、戦争への不安の中で
成長してきた歴史がある。」



軍需は、大勢の一般消費者を顧客とせず、
国のみを相手にするビジネスで、景気に左右されにくい上、
状況の変化で役に立たなくなった兵器でさえも、

国が税金で買い上げてくれるので十分にペイできる」
例えば当時のソ連を仮想的として1970年代半ばから

三菱重工が開発を進めた「九〇式戦車」は、
実際に配備が始まった九〇年直後に旧ソ連が

崩壊してしまい、無用の長物となったにも関わらず、
防衛費で調達され、三菱重工はビジネス上まったく損をしなかった。およそ民間企業らしくない。こうした体質を
形造った同社の歴史とは、一体どのようなものだったのか。

(『週刊金曜日』編『国策防衛企業三菱重工の正体』

金曜日・2008年3月25日・47頁)



(株三菱重工HPより(下の2枚))

軍需産業(武器輸出)に肯定的な文献

C 民需だけしかやっていない企業は、相当武器輸出に
関してネガティブな感じを持つのではないかと思います。

I 民需企業は武器輸出三原則の緩和に反対でしょうか？

C 民需だけしかやっていないところは、

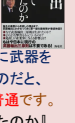
死の商人的なイメージが防衛産業を含む
産業界全体につくのを嫌がるでしょう。

G ですが、国際的には武器輸出は

死の商人というネガティブな面ではなく、逆に武器を
造れる、輸出できる技術力を持った企業なのだ、
企業のブランド価値を高めるという考えが普通です。

(森本敏『武器輸出三原則はどうして見直されたのか』

海電社・2014年3月28日・70頁)



技術力があると言っても、

ただ作れるだけではだめなのです。

それが世界に比して

優位性を持っていることが重要なのです。

すなわち「世界一」を目指し、そのレベルに到達して

初めて他国との駆け引きも可能なのです。

現在、主流の国際共同開発に参加する為に

自国に秀でた技術がなければ

「お呼びじゃない」のです。



(桜林美佐『武器輸出だけでは防衛産業は守れない』

並木書房・2013年7月20日・2頁)

国内で潜水艦を建造できるのは、

三菱重工業と川崎重工業の二社だけです。

潜水艦に求められる重要な性能は何かと言えば、

「静粛性」だと考えられますが、

では実際どれくらい静かでなければならぬかは、

限りなくゼロを目指すわけで、

具体的な数値があるわけではありません。

しかし日本の通常型潜水艦が

世界一と言われるほど音が出ないように仕上げたのは、

この両社が互いに意識し合い、「隣に負けるな」の精神で

トップを目指し、世界に誇れる潜水艦を造るべく

努力を怠らなかったからなのです。

(同上書・106頁)



潜水艦「こくりゅう」
株川崎重工HPより

潜水艦「おうりゅう」
株三菱重工HPより



近隣国が一定以上の航空戦力を有しているとき、
もし自国に非力な空軍しかなかったならば、
その政府は侮られ、
その国民は、財産・身体・生命・自由を
他国から侵奪されるだろう。

そのゆえに、現代国家は
安全保障政策の主要な柱の一つとして
航空戦力を重視しないわけにはいかない。

(兵頭二十八『日本の兵器が世界を救う 武器輸出より
武器援助を!』徳間書店・2017年2月28日・222頁)



原子力〇〇漢字1文字
原子力□□カタカナ2文字
「原子力村」(Wikipedia)
原子力発電業界の産・官・学の
特定の関係者によって構成される
特殊な村社会的社会集団、
およびその関係性を
揶揄・批判を込めて呼ぶ用語。
原発を推進することで互いに利益を得てきた
政治家と企業、研究者の集団とされている。

「原子カムラ」(コトバンク)
原子力発電を巡る利権によって結ばれた、
産・官・学の特定の関係者によって構成された
特殊な社会的集団およびその関係性を
揶揄(やゆ)または批判を込めて呼ぶ用語。
2011年の福島第一原子力発電所事故により
原子力を巡る産・官・学の癒着や閉鎖性が
マスコミなどによってクローズアップされた。
国際原子力委員会(IAEA)から、
日本の原発規制当局には十分な独立性がないと指摘。

小出裕明



元京都大学原子炉実験所助教

今回の事故の背景には、
エネルギー政策を統括する経済産業省と
東京電力の悪質な隠蔽体質があります。
私は福島県知事時代から、再三にわたって
東電の情報改竄や隠蔽体質、
その背後にいる国の歪な
原発政策を批判し続けてきました。
私が初めて日本の原子力政策に
疑問を抱く契機になったのは、
知事就任翌年の1989年1月6日、
福島第二原発3号機の部品脱落事故でした。



東電は前年から異常発生を知らせる
警報が鳴っていたにも関わらず、
運転を続けていた事が後に明らかにされました。
更にその事実を東電は隠蔽した上、
事故情報は東電本社から通産省、
通産省資源エネルギー庁から福島県、
そして地元富岡町には、最後に県庁から
やっともたらされるという有様だったのです。
地元自治体は原発に関して何ら権限を持たず、
事故が起きてからも傍観するしかないという
歪な構造が明らかになったのです。(小出裕章他
『原子力村の大罪』KKベストセラーズ・2011年9月7日・104頁)

9年前の2002年、村を揺るがす不祥事が起きた。
原発の点検記録改竄や虚偽報告などの
トラブル隠しが発覚。
原子力本部長の副社長と
歴代社長4人が引責辞任に追い込まれた。
東電は「原子力部門の閉鎖性を打破する」と、
再発防止に取り組む。
新しい本部長には火力畑の副社長、
白土良一(72)が就任。
現会長の勝俣恒久(71)は、このとき社長になり、
信頼回復を最優先に掲げた。

だが村の本質は今も変わっていない。
柏崎刈羽原発の所長だった武黒は、
トラブル隠しの管理責任を問われて
減給処分を受けたが、
05年には白土の後任として
原子力・立地本部長に就任。
村のトップは原子力技術者に戻った。
(小森敦司『日本はなぜ脱原発できないのか
「原子力村」という利権』
平凡社・2016年2月15日・24頁)



省庁に隠された米国の意図

財務省(大蔵省)

外務省

経済産業省

総務省

防衛省

国土交通省

文部科学省

厚生労働省

警察庁

防衛庁

(2007年・省に昇格)

